

中学校第3学年 美術科 学習指導案

期 日 平成21年10月9日(金)第5校時
場 所 上天草市立維和中学校 3年教室
指導者 教諭 本山 和寿

1 題材名

「和菓子～日本の美～」(表現(デザイン・工芸)「日本文教出版」)

2 題材について

(1) 和菓子は「食文化の華」とも言われ、千年以上の歴史を持つ日本の伝統的な食べ物である。

和菓子の種類は非常に多く、蒸し菓子、餅菓子、生菓子、流し菓子、焼き菓子等に大別されるが、その中でも生菓子、特に上生菓子は、形や色で季節を表し、固有の銘(菓銘)を持つもので、独特のよさや美しさがある。

この上生菓子の特徴は多岐にわたるが、美術的な視点からは以下の点が挙げられる。

- ①色や形、材料等の工夫で「季節感」を表現している。
- ②作り手の考え方や感じ方で様々に変化する色や形、中身の見えないところにまで意味や願いを込めるなどの「手づくりの技」が駆使されている。
- ③花鳥風月、四季、和歌、俳句、歴史、郷土等に基づいた「菓銘」を持つ。

このように、小さな和菓子の中には日本の様々な美意識が詰め込まれており、身近にある美術文化についての理解を深めるのに適した題材である。また、日本の四季の持つ美しさを食べ物に表現して味わうという視点から、生活を豊かにする美術の働きについても実感させることができる題材である。

本題材では、導入時に鑑賞活動を行い、和菓子のよさや美しさなどを実感した上で、装飾や構成を考えて発想や構想をし、粘土などの材料を使って、オリジナルの和菓子の制作を行う。また完成した作品を用いて展示会を行い、その中で鑑賞活動も行う。

表現の指導においては、日本の四季や自然物などのイメージを基に、単純化したり象徴的に表したりして、形や色彩などに注意しながら、発想や構想することに重点を置く。

また、和菓子をつくることだけでなく、もてなしの心などを表した装飾的な展示の仕方も考えさせ、総合的な表現の構想を練ることも重視する。

ところで、和菓子は身近なものであるが、本校の生徒にとっては日常的に味わうものであるとは言い難い。そのため、かしまっていて堅苦しい、お客があったときしか食べられないもの等のイメージを持っていたり、敬遠したりすることも考えられる。しかし、これらのマイナス的なイメージは、日本的な美意識を一面からとらえたものであり、これらを足掛かりとして学習を進めることで、より深い理解へとつなげることができる。また、そのことによって、身近にある他の美術文化にも関心が広がり、それらを見直し、理解を深めていく態度を育てることも期待できる。

(2) 本題材の系統は次のとおりである。

(※日本文教出版 美術1, 美術2・3上, 美術2・3下 年間指導計画による)

1 学 年	文字を生かした デザイン	・伝えたい内容や使う場面、場所などを考え、目的に応じて形や色を工夫し、楽しい文字、美しい文字をデザインする。
	自然の形や色を生かして	・身近な自然材の特徴や美しさを感じ取りながら、その形や色、質感などを生かした造形活動を楽しんだり、美しい構成を発見したりする。

2 学 年	だれもが快適な デザイン	・人々の生活や社会状況に興味を持ち、様々な人々の立場の違いを考え、だれもが快適に使えるものをデザインする。
-------------	-----------------	---

3 学 年	篆刻 ～卒業制作～	・石を材料とし、自分の印鑑を作る。自分を表す印や持ちやすい持ち手をデザインし、彫ったり削ったりして完成させる。
-------------	--------------	---

「和菓子～日本の美～」(本題材)

(3) 本題材に係る生徒の実態は次のとおりである。

- 本学級の生徒は、男子4人、女子5人の計9人である。表現と鑑賞のどちらの活動も好きな生徒は22%（2人）、表現活動のみが好きな生徒は67%（6人）、鑑賞活動のみが好きな生徒は0%、どちらの活動も嫌いな生徒は11%（1人）である。
- デザインや工芸などの表現活動に対して興味のある生徒は44%（4人）で、作りたい物の発想や表現の構想を練ることに楽しさを感じている生徒は67%（6人）である。また、日本の美術に興味・関心を持っている生徒は33%（3人）である。全体的には集中して制作活動を行う学級である。【関心・意欲・態度】
- 「作品をこのように表現しよう」と、しっかりイメージして取り組むことができている生徒は78%（7人）であり、そのことに楽しさを感じている生徒は67%（6人）である。全体的には個人差があり、発想に時間がかかり、構想に苦手意識を持っている。【発想・構想の能力】
- 色をつくり出したり、表現技法を工夫したりする基本的な技能は78%（7人）の生徒が身に付けている。しかし、自分の作品のイメージを振り返り、確かめながら制作を進めることができる生徒は33%（3人）と少ない。このように発想や構想を確かめながら制作する態度の育成は継続した課題である。【創造的な技能】
- 友達の作品を見ることに興味を持っている生徒は89%（8人）、友達の作品や美術作品を見て、よさや美しさを感じ取り味わうことができている生徒は78%（7人）である。しかし、美術の時間以外でも、身の回りのものを見てよさや美しさなどをよく感じる生徒は56%（5人）に留まる。全体的に作品を見るのは好きであるが、「批評し合う」という段階までは至っていない。【鑑賞の能力】

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

- 書く・発表する・意見を述べ合う等の言語活動を計画的に位置付け、ワークシート（言葉のスケッチ）を活用しながら、その充実を図る。
- アートゲームや実物を用いた鑑賞活動を行い、和菓子の美しさやよさを実感させ、それを表現活動に生かすようにする。
- ワークシート（言葉のスケッチ）を活用して、表したいイメージを明確にし、表現の構想を確かなものにする。
- 自分のイメージを効果的に表現するために、材料や用具の使用を検討させ、表現を工夫させる。
- 表現の過程においても、ワークシート（言葉のスケッチ）を活用し、表したいイメージが表現できているか、または表したいイメージがどのように変わってきたか等を確認しながら制作に取り組ませるようにする。

〈人権教育の視点〉

本学級は少人数ではあるが個人差が大きく、それが取組状況や作品の内容に表れている。そこで、本題材では、お互いのよさを認め合う雰囲気づくりに努めることとし、特に学習の各過程に位置付けた言語活動を行う場面で、お互いのよさを認め合う場を計画的に設定する。

〈思考力、判断力、表現力の育成に関する視点〉

思考力、判断力、表現力を育成するためには、①知識・技能を活用する学習活動の充実、②言語活動の充実が必要である。

本題材においては、①について、熊本型授業での授業展開を行い、知識・技能の徹底指導とそれらを活用した能動型学習のめりはりのある授業展開を心掛ける。特に能動型学習の場面において、知識・技能を活用する学習課題を毎時間提示し、生徒に確実に把握させて活動させることで、思考力、判断力、表現力の育成を図る。

②については、「言葉のスケッチ」を活用した言語活動の場面を設定し、「明確化」、「具体化」、「共有化」等それぞれのねらいに応じて計画的に展開する。

以上の点から、思考力、判断力、表現力の育成を目指す。

〈熊本型授業の具体的展開に関する視点〉

本題材では、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む「能動型学習」を展開の中心とし、ポイントに「徹底指導」を組み込みながら、めりはりをつけることで、思考力、判断力、表現力を高めることを目指す。

具体的には、各学習過程に設定した「言葉のスケッチ」を用いた言語活動の場を「徹底指導」の場とし、各段階での言語活動のねらいを「明確化」、「具体化」等と設定して基礎的・基本的事項の確実な定着を図る。そして鑑賞や表現活動などの「能動型学習」の場面では基礎的・基本的事項を活用する学習課題のもとに、生徒が主体的に学習に取り組むようにする。

3 題材の目標と評価規準

題材の目標	和菓子のよさや美しさを理解し、自分が表したいイメージを明確にして具体的な構想を練り、工夫して表現することができる。
美術への関心・意欲・態度	・和菓子の名称やデザインなどに興味・関心を持ち意欲的に制作・鑑賞しようとする。
発想や構想の能力	・食べる人の立場に立って、和菓子としての目的や機能、材料の持つ特性、造形的な美しさなどを総合的に発想し、構想を練ることができる。
創造的な技能	・色彩や形などを工夫し、道具を効果的に使用して、自分の構想を表現している。
鑑賞の能力	・和菓子に込められた日本特有の美意識や季節感を感じ取るとともに、伝統工芸や伝統文化などから造形的なよさや美しさ、創造力の豊かさなどを理解しそのよさを味わうことができる。

4 指導・評価の計画（6時間取扱い）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※言語活動とその留意点	評 価 項 目 (方 法)
1	1 (本時)	和菓子を鑑賞する。 【個別】→【グループ】	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉のスケッチ」を基に、季節感や和菓子らしさ、作り方の工夫の視点から鑑賞させる。 ・意見交換を行い、見方・感じ方を広げさせる。 	【鑑賞の能力】 自分なりの感じ方で、和菓子のよさ美しさなどをとらえ、具体的に「言葉のスケッチ」に記録し、意見を述べている。(行動観察・「言葉のスケッチ」)
	2	オリジナル和菓子づくりの構想を練る。 【個別】	<ul style="list-style-type: none"> ・食べる人の気持ちや、季節感、配色、材料の持つ特性などから発想し、構想を練らせる。 ・形や色彩、材料の特性などから総合的に構想をまとめさせる。 ・「言葉のスケッチ」を基に具体的な構想を立てさせる。 	【発想・構想の能力】 自分の表したいイメージを色彩や形などの視点から具体化し、アイデアスケッチと言葉で表現している。(行動観察・「言葉のスケッチ」)
2	2	オリジナル和菓子をつくる。 【個別】	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を工夫して使用し、効果的に表現させる。 ・「言葉のスケッチ」を基に、互いの作品について意見を述べ合う。 ・季節感のある魅力的な題名をつけさせる。 	【創造的な技能】 色彩や形など工夫し、道具を効果的に使用して、自分の構想を表現している。(行動観察・作品・「言葉のスケッチ」)
3	1	お互いの作品を鑑賞する。 【個別】→【グループ】	<ul style="list-style-type: none"> ・作品のよさを引き立たせる展示の仕方を工夫させる。 ・自他の作品のよさを具体的に挙げさせる。 ・意見交換を行い見方・感じ方を広げさせる。 	【鑑賞の能力】 自分なりの感じ方で、友人の作品のよさや美しさなどをとらえ、具体的に「言葉のスケッチ」に記録し、意見を述べている。(行動観察・「言葉のスケッチ」)

5 本時の学習（1時間）

(1) 目標（「鑑賞の能力」の育成に重点を置く）

和菓子に込められた日本特有の美意識や季節感を感じ取るとともに、造形的なよさや美しさ、創造力の豊かさなどを理解しそのよさを味わうことができる。

※下線部は、特に【共通事項】を位置付けて指導する。

(2) 展開

段階	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考	
導入 15分	1 カード・ゲームを行う。 【グループ】(能動)	<ul style="list-style-type: none"> ・「カードの仲間分けをしてみよう。」 ・「仲間分けした理由を発表してください。」 〈予想される分類〉 <ul style="list-style-type: none"> ・食べたことがある, ないもの ・食べたいもの, それ以外 ・洋菓子和菓子, スナック菓子 ・季節を感じる, 感じないもの ・形が工夫されているもの ・色がきれい, 淡い ・大きい, 小さい など 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードの内容 ・和菓子 ・洋菓子 ・スナック菓子 ・和菓子の特徴をとらえた意見を板書し, 共有化を図る。 「特徴: 季節感・技…」 ・菓銘等の特徴を補足する。 ・和菓子職人が和菓子を作っているビデオを見せ, 「手づくりの技」を実感させる。 	カード3セット 掲示用カード プロジェクタ	
展開 5分	2 本時の学習内容を知る。【一斉】 (徹底)	和菓子のよさや美しさを味わおう			
20分	3 和菓子を鑑賞する。 (1) 和菓子を鑑賞し, 友達と意見を交換する。 【個人】→【グループ】 (能動)	<ul style="list-style-type: none"> ・『言葉のスケッチ』を基に, 全体的なイメージや形, 色彩, 季節感などの点から鑑賞をしよう。」 ・「友達と気付いたことや感想など, 意見交換をしよう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のスケッチに示した視点で鑑賞させ, 記述させる。 ・中身を見せたり, においを嗅がせたりしてイメージを広げさせ, 「言葉のスケッチ」につなげる。 ・一人一人の実態を把握し, 意図的に指名することで, 多様な見方や感じ方, 気付きを引き出し, お互いに学び合えるようにする。 	「言葉のスケッチ」 和菓子	
5分	(2) 友達の発表を聞いて自分の気付きをて見直す。 【一斉】(徹底)	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達の気付いたことや感想を聞いて, 自分の気付いたことを見直してみよう。」 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価基準B</p> <p>自分なりの感じ方で, 和菓子のよさや美しさなどをとらえ, 具体的に「言葉のスケッチ」に記録し, 意見を述べている。【行動観察・「言葉のスケッチ」】</p> <p>Aの学習状況</p> <p>色彩や形, 表現技法など, 複数の視点から和菓子のよさや美しさなどを明確にとらえ, 具体的に「言葉のスケッチ」に記録し, 意見を述べている。</p> <p>Bに達しない生徒への手だて</p> <p>個別に指導し, より具体的な観点を提示することで, 鑑賞を進めさせる。</p> </div>		
終末 5分	4 本時の学習を振り返り, 次時の予定を聞く。 【一斉】(徹底)	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日の学習で得たことを確かめよう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で得たことなどを確認させる。 ・和菓子の特徴を確認させる。 		

第1次の2『オリジナル和菓子の構想を練る』学習指導案

5 本時の学習（2時間）

(1) 目標（「発想・構想の能力」の育成に重点を置く）

自分が表したいイメージを、色彩や形、使用する材料等から明確にし、具体的な構想を練ることができる。

※下線部は、特に〔共通事項〕を位置付けて指導する。

(2) 展開

段階	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 5分	1 本時の学習内容を知る。 【一斉】（徹底）	・「和菓子の特徴を確認しよう。」	・和菓子の特徴を整理し、板書する。	和菓子の画像など
展開 90分	オリジナル和菓子の構想を確かなものにしよう。			
	2 「言葉のスケッチ」を用いて、制作の構想を練る。 【個】（能動）	・『言葉のスケッチ』を基に、自分の作品の構想をしっかり立てよう。」	・言葉のスケッチを用いて全体的なイメージや季節感、色彩や形などから検討させ、具体的で明確な構想を立てさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価基準B 自分の表したいイメージを色彩や形などの視点から具体化し、アイデアスケッチと言葉で表現している。 【行動観察・「言葉のスケッチ」】 Aの学習状況 自分の表したいイメージを効果的に表現するために、色彩や形など視点から具体化し、アイデアスケッチと言葉で表現している。 </div>	「言葉のスケッチ」
	3 友達と意見交換をする。 【グループ】（能動）	・「友達に自分の構想を説明し、気付いたことや感想など、意見交換をしよう。」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> Bに達しない生徒への手だて 個別に指導し、より具体的な観点を提示することで、鑑賞を進めさせる。 </div>	
終末 5分	4 本時の学習を振り返り、次時の予定を聞く。 【一斉】（徹底）	・「今日の学習で得たことを確かめよう。」	・本時の学習で得たことなどを確認させる。 ・生徒のアイデアスケッチを数点提示し、工夫した点等を知らせる。	

※2、3年の美術の授業時数は、週1時間であるが、2時間取扱いの学習であるため、展開を90分で作成した。

実際には、50分の授業を2回実施することになる。各時間に導入と終末の10分が必要となるので、展開は40分（計80分）となる。

第2次『オリジナル和菓子をつくる』 学習指導案

5 本時の学習（2時間）

(1) 目標（「創造的な技能」の育成に重点を置く）

材料の特徴を生かし、色彩や形、質感、道具の使用の仕方などを工夫して、自分の表したいイメージを作品に表現することができる。

※下線部は、特に〔共通事項〕を位置付けて指導する。

(2) 展開

段階	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 5分	1 本時の学習内容を知る。 【一斉】（徹底）	・『言葉のスケッチ』で、自分の作品の構想を確認しよう。」	・「 言葉のスケッチ 」で、自分の 構想を確認させる。	「言葉のスケッチ」
展開 90分	自分のイメージを作品にしよう			
	2 オリジナル和菓子をつくる。 【個】（能動） 3 友達と意見交換をする。 【グループ】（能動）	・「色彩や形など、自分の構想を確認しながら表現しよう。」 ・「友達と途中作品を見せ合い意見交換をしよう。」	・「 言葉のスケッチ 」を基に、 表したいものが表現できているか確認しながら制作に取り組みさせる。 評価基準B 色彩や形など工夫し、道具を効果的に使用して、自分の構想を表現している。 【行動観察・作品・「言葉のスケッチ」】 Aの学習状況 色彩や形、季節感などが表現できているか確認しながら、道具を効果的に使用して自分の構想を表現している。 Bに達しない生徒への手だて 個別に指導し、「言葉のスケッチ」を基に表現の工夫をさせる。	「言葉のスケッチ」 粘土 粘土へら
終末 5分	4 自分の作品に題名をつける。 【個】（能動） 5 次時の予定を聞く。 【一斉】（徹底）	・「自分の作品の題名を考えよう。」 ・「自分の取組を振り返ろう。」	・題名も和菓子の印象を決める重要な要素であることを伝える。 ・これまでの活動を振り返らせ、自分の表したいイメージが表現できたかを自己評価させる。	「言葉のスケッチ」

※2、3年の美術の授業時数は、週1時間であるが、2時間取扱いの学習であるため、展開を90分で作成した。

実際には、50分の授業を2回実施することになる。各時間に導入と終末の10分が必要となるので、展開は40分（計80分）となる。

第3次『お互いの作品を鑑賞する』 学習指導案

5 本時の学習（1時間）

(1) 目標（「鑑賞の能力」の育成に重点を置く）

友達作品を鑑賞し、色彩や形、材料などから作品のよさや美しさ、制作意図や表現の工夫を感じ取ることができる。

※下線部は、特に〔共通事項〕を位置付けて指導する。

(2) 展開

段階	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 15分	1 本時の学習内容を 知る。 【一斉】（徹底）	・「作品を展示して鑑賞しよう。」		作品紹介 カード
	友達の作品を鑑賞し、表現の意図や工夫を味わおう			
展開 30分	2 作品を展示し、発表の準備をする。 【個】（能動）	・「作品を引き立たせる展示を工夫しよう。」	・作品に合う皿などを準備させ、展示の工夫をさせる。	「言葉の スケッチ」
	3 グループ内で作品を鑑賞し、意見や感想を述べ合う。 【グループ】（能動）	・全体的なイメージや制作意図、季節感などの表現の工夫から鑑賞させる。 ・友達が自分の作品についての意見や感想を述べた後、説明をさせる。	・発表しやすいように、司会者を決めて進行させ、相互発表がスムーズに行くようにする。	
	4 グループから一点、推薦作品を決める。 【グループ】（能動）	・推薦理由を話し合い、グループで共有化させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価基準B 自分なりの感じ方で、友達の作品のよさや美しさなどをとらえ、「言葉のスケッチ」に記録し、意見を述べている。 【行動観察・「言葉のスケッチ」</p> <p>Aの学習状況 造形的な根拠をあげて、友達の作品のよさや美しさなどをとらえ、「言葉のスケッチ」に記録し、意見を述べている。</p> </div>	
5 各グループの推薦作品の紹介をする。 【一斉】（能動）	・同じグループの作者以外の生徒に発表させる。 ・作品のよさや美しさ、工夫点などを発表させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Bに達しない生徒への手だて 個別に指導し、具体的な観点を提示することで、鑑賞を進めさせる。</p> </div>		
終末 5分	6 本時の学習を振り返り、教師のまとめを聞く。 【一斉】（徹底）	・「私たちの身の回りの美術文化やその働きを考えてみよう。」	・生活を豊かにする美術の働きについて説明する。	・参考作品・画像